

大学の世界展開力強化事業
（平成27年度採択）
平成30年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成31年1月29日（火）
独立行政法人日本学術振興会

■ フォローアップの目的

大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップ活動を行う。

＜参考：大学の世界展開力強化事業公募要領＞（抜粋）

2. 本プログラムの概要

(8) 事業の評価等

毎年度ごとのフォローアップ活動（後述の「中間評価」実施年度は除く。）に加え、補助期間開始から3年目の平成29年度に中間評価、補助期間終了後（補助期間開始から6年目の平成32年度）に事後評価を実施する予定です。これらのフォローアップ活動及び中間評価の結果は、翌年度の補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合は、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。これらの評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

■ スケジュール

- ・ 平成30年4月9日
フォローアップ実施について文部科学省から大学に通知
- ・ 5月23日～25日
大学からフォローアップ調査票の提出
- ・ 平成31年1月29日
プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・ 1月
フォローアップ結果の公表

■ フォローアップの総括

平成27年度に採択された11件のプログラムについて、構想の進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する実績（派遣・受入の学生数）等のフォローアップを行った。

各プログラムの取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、受入・派遣のサポート体制や大学間連携の強化、国際共同学位プログラムの構築等が順調に実施されているほか、参加学生や教職員の安全確保の観点から代替策として第三国でプログラムを実施するなど、状況に応じた交流実施計画の変更も的確に成されており、それぞれの構想の目的や特色等を反映した取組が行われている。

事業全体の交流学生数については、単位取得を伴う派遣数は若干少なかった一方で、受入数は堅調に推移している。

支援最終年度を来年度に控え、各プログラムにおいては、引き続き目的に沿ってさらに取組内容を充実させ、成果を挙げていくことが期待される。

1. 取組の進捗状況

「大学の世界展開力強化事業 平成29年度フォローアップ調査票」による各採択大学からの回答に基づき、以下①～④の観点における取組内容の進捗状況について、抽出・整理した。

- ① 交流プログラムの内容
- ② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

① 交流プログラムの内容

(主たる交流先・中南米：○山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)

短期留学時の日本語・スペイン語の使用頻度の向上とワークショップの活性化に取り組んでいる。講義やプレゼンテーションを英語で行っていることから交流言語の中心は英語に偏りがちであるが、ホテルやレストランで積極的に学習した両言語を使わせる等工夫している。また、ワークショップについては、テーマの絞り込みと事前のテーマ出しによって、日本人学生が現地学生と協力して取り組めるようにした。

(主たる交流先・中南米：筑波大学)

双方向による学生交流活動について、これまでより拡充させ展開した。そのために必要な海外連携大学との協議・調整、学内プログラム実施委員会を継続的に実施し、海外連携大学との共同プログラム運営委員会の開催を通して、学内外の協力体制の整備拡充により、計画段階で設定した学生交流数の確保、教育内容の充実、インターンシップの実施等、協働教育について着実に達成することができた。

(主たる交流先・中南米：○東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学)

各プログラムは、①3大学合同での事前教育（短期型の日本語教育については各大学で実施）、②各大学でのラボワーク、コースワーク、フィールドワーク、③インターンシップ（短期型は企業訪問）、④3大学合同での留学成果報告会等から成り、派遣学生と受入学生の交流及び文理を超えた学生交流を行うことにより、3大学協働「トリプレット」の効果を最大限発揮しながら、留学プログラムを推進することができた。

(主たる交流先・中南米：○長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校)

新規に本学学生10名を約1か月間現地に派遣し、語学研修（英語及びスペイン語）、現地学生とのワークショップ等により支援を行うとともに、学生の課題解決能力、コミュニケーション能力、ロジカルシンキング能力等の向上を図った。

(主たる交流先・トルコ：○新潟大学、福島大学)

短期受入では、相手の3大学から計15名を新潟大学及び福島大学に4週間受け入れた。また、中長期受入では計画を1名上回る7名を受け入れた。短期派遣では4週間、タイ・チェンマイに15名を代替派遣した。この代替派遣にはトルコ人学生4名及び教員1名も参加し、日本、トルコ及びタイの農業を比較し、違いを学んだ。トルコ情勢の好転を受け、トルコへの安全な学生派遣が可能と判断し、トルコへの短期学生派遣を実施した。

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

（主たる交流先・中南米：東京大学）

本事業では定期的に会議を設け、学生交流などについての意見交換や情報共有を実施することで各プログラムとの連携や事業内容の充実化を図っている。また、参加学生には研修後にアンケート調査を実施して、その意見を連携ファカルティ委員会で共有し、必要によっては議論することで交流プログラムの内容改善に努め、より質の高い学生交流を目指している。

（主たる交流先・中南米：○上智大学、南山大学、上智大学短期大学部）

中南米スタッフミーティングでは、本事業が残り2年となり、活発な学生交流を継続するために必要な方策として、奨学金の充実が課題として挙げられた。日本学生支援機構重点政策枠の奨学金を有効に活用し、多くの学生に支援を行き届かせることができるよう、今後も工夫していくことが必要である。

（主たる交流先・中南米：東京農業大学）

各協定校の担当者と本事業の改善点について会議を行い、活発な交流を継続的に行うために、今後は学生の航空運賃を各大学が負担するとの提案があった。

（主たる交流先・トルコ：東京藝術大学）

事業の計画・企画及び検証・評価については、本学のグローバル戦略推進委員会における協議、外部有識者により構成するグローバル戦略評価・検証委員会における第三者評価を実施した。

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

(主たる交流先・中南米：千葉大学)

プログラムの必須条件であるインターンシップを日本国内で連携企業6社で、メキシコにおいて2社で実施した。これらの成果報告会を在日メキシコ大使館で行った。

(主たる交流先・中南米：○東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学)

異分野交流及び地域理解プログラムによる学生の受入及び派遣における3大学協働の日本語・日本事情教育では、効率的な学習機会を確保するため、異分野交流・受入の日本語教育を各大学で実施した。

(主たる交流先・中南米：東京農業大学)

本事業について広く周知するため、短期派遣プログラムの教職員引率者が協定校訪問の際に現地学生に向けてプレゼンを行った。その中で、ウェブサイトとFacebookページを紹介した結果、留学希望の学生からの問合せが増えた。

(主たる交流先・トルコ：○新潟大学、福島大学)

アンケート等によって過去の参加学生から意見を収集し、その結果をプログラム運営に反映させて学生が学びに集中できる修学環境となるように努めた。特に、受入側教職員や学生によるサポート体制を充実させることで、より円滑なプログラム運営が可能となった。

④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

(主たる交流先・中南米：○山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)

長期留学をより身近なものにすべく、留学経験者へのインタビューを中心とするプロモーションビデオを制作しオリエンテーションで上映するとともに、ウェブサイトでも公開した。併せて、参加学生の留学体験記も多数掲載した。

(主たる交流先・中南米：東京大学)

本学のオープンキャンパスで、過去にチリ、ブラジルに派遣した学生らとブラジルからの受入学生がミニ講演会とサイエンスカフェを開催し、来場者に対して中南米との科学を通じた交流や自身の研究について紹介した。

(主たる交流先・中南米：○上智大学、南山大学、上智大学短期大学部)

プログラム参加者の体験談と留学経験者によるプロモーションビデオを制作し、本事業ウェブサイトで広く発信したほか、短期プログラム及び留学生報告会の報告書冊子を作成した。また、上智大学の特設開講科目「人の移動と共生」では、広く成果を共有すべく、授業をオープンコースウェアで一般に公開した。

(主たる交流先・トルコ：○東京大学、東京工業大学)

東京大学、東京工業大学ともに4ターム制(クォーター制)学事暦を導入し、学生の就職活動や論文執筆への影響を抑えながら、留学等に参加しやすい環境が整備されている。

(主たる交流先・トルコ：○新潟大学、福島大学)

多くの学生や教職員がトルコからの留学生と交流し、大学の国際化に貢献した。中長期受入では、滞在中の研究成果に基づいて学術論文を発表した学生がおり、研究面での交流も活性化できている。

2. 特記すべき成果

（主たる交流先の相手国・中南米：筑波大学）

学内プログラム実施委員会を中心に、海外連携大学との調整、科目内容の充実、共同プログラム運営委員会の開催（カトリカ大学）など、プログラムの円滑な実施に向けた学内外との精力的な調整と協力体制の強化により、活発な事業実施が図られた。

（主たる交流先の相手国・中南米：千葉大学）

日本のメキシコ大使館及びパナマ大使館の両方と親密な連携の下で事業を実施しており、パナマの特命全権大使とメキシコの全権大使によるプログラムの視察も受けている。平成29年度も企業からの支援を受け、合計で100名以上の学生の派遣・受入を実現した。平成30年度には更なる学生の派遣・受入を予定し、企業及びメキシコ政府、パナマ政府に支援を要請している。各々の国からの学生の日本への派遣（千葉大学での受入）に対して奨学金などの援助を依頼しており、派遣・受入の実現を目指していく。

（主たる交流先の相手国・中南米：○長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校）

現地の3大学、日本企業との三者間インターンシップ協定の締結により、現地学生の渡航費、滞在費等経費は企業側からの支援を得ることで、持続可能なインターンシップ・プログラムとして改善できた。

（主たる交流先の相手国・トルコ：○東京大学、東京工業大学）

学生同士の交流のみならず、教職員と関係協力企業、大使館等の政府機関との関係を強化することで、今後のプログラムにも有用なコネクションを形成した。

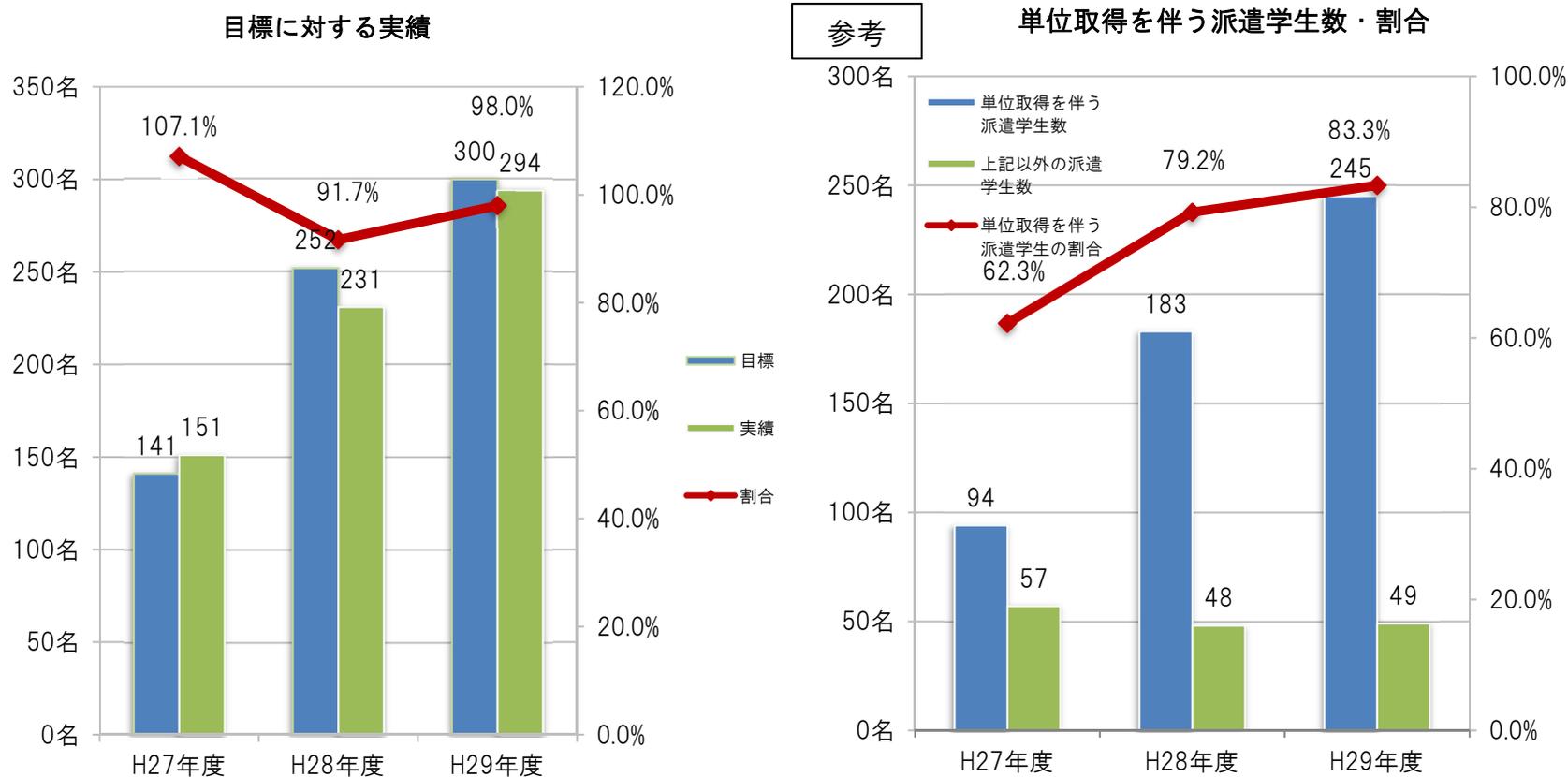
（主たる交流先の相手国・トルコ：○新潟大学、福島大学）

日本人学生にとっては、国際企業で働くことの意義の更なる理解と社会的に必要とされる人材になるためには何が必要なのかを問い直す良い機会となり、大学院での修学についても真剣に向き合うきっかけとなった。帰国後は、学生自身に国際感覚が生まれ、学内の留学生への積極的サポートや、自身の英語力の更なる向上を目指すなど、大学全体の国際化にも貢献している。

3. 交流学生数の実績（1）

（1-1）交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数） について〈全体の状況〉

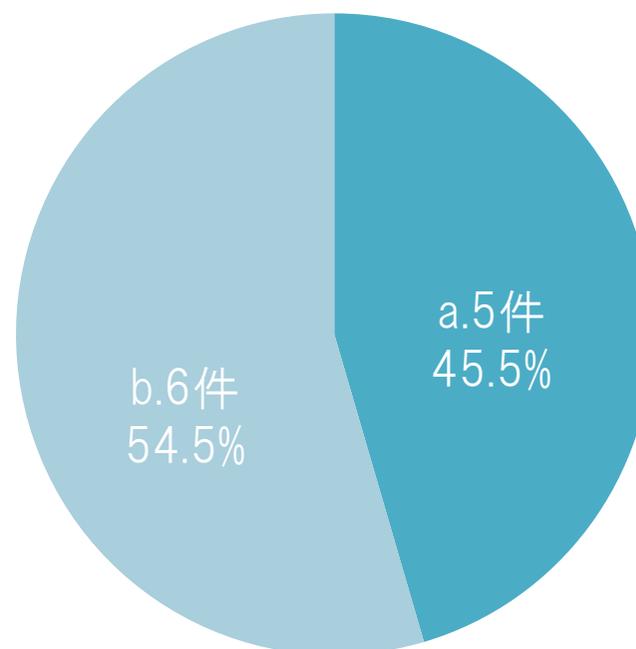
直近の2年間は目標を下回っているが、単位取得を伴う派遣学生は事業開始から一貫して増加している。



(1-2) 交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）
について〈各事業の状況（平成29年度）〉

目標に対する実績の割合が

- a. 100%以上～200%未満
- b. 100%未満



※個別の派遣学生数の詳細は別表1参照

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (主な取組を抜粋)

【平成29年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(主たる交流先・中南米：筑波大学)

海外連携大学における教育活動を通して、学生のグローバル対話力、多文化共生の重要性を修得させるとともに、目標である地球規模課題の解決に向けた意欲創出を引き出すことができた。また、本研修の運営を通じて、連携大学間での更なる協力関係の促進と連携体制の強化が図られた。

(主たる交流先・中南米：○東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学)

3大学協働の派遣前教育プログラムにおいて、語学研修では、3大学の派遣学生と派遣予定先大学から東京外国語大学に留学中の受入学生との交流の時間を設け、派遣前に交流や情報交換を実施することで、派遣学生の当該国への知識を深め、留学に対する不安を和らげた。

【平成29年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

(主たる交流先・中南米：千葉大学)

補助金の減による学生への支援金額の減少に伴い旅費支給額を減額したことにより、プロジェクトを辞退した学生と、メキシコでの震災を理由に派遣を辞退した学生が出た。

(主たる交流先・トルコ：○東京大学、東京工業大学)

目標に対して8割程度の達成に留まっている理由に関しては、トルコの情勢についてのイメージが回復しておらず、学生や保護者が派遣に消極的な現状が挙げられる。一方で、比較的長期にトルコに滞在した学生からは、本交流プログラムを通して非常に有意義な経験ができたとの好意的な感想が寄せられている。また、トルコ側からも日本の学生の優秀さが高く評価されている。

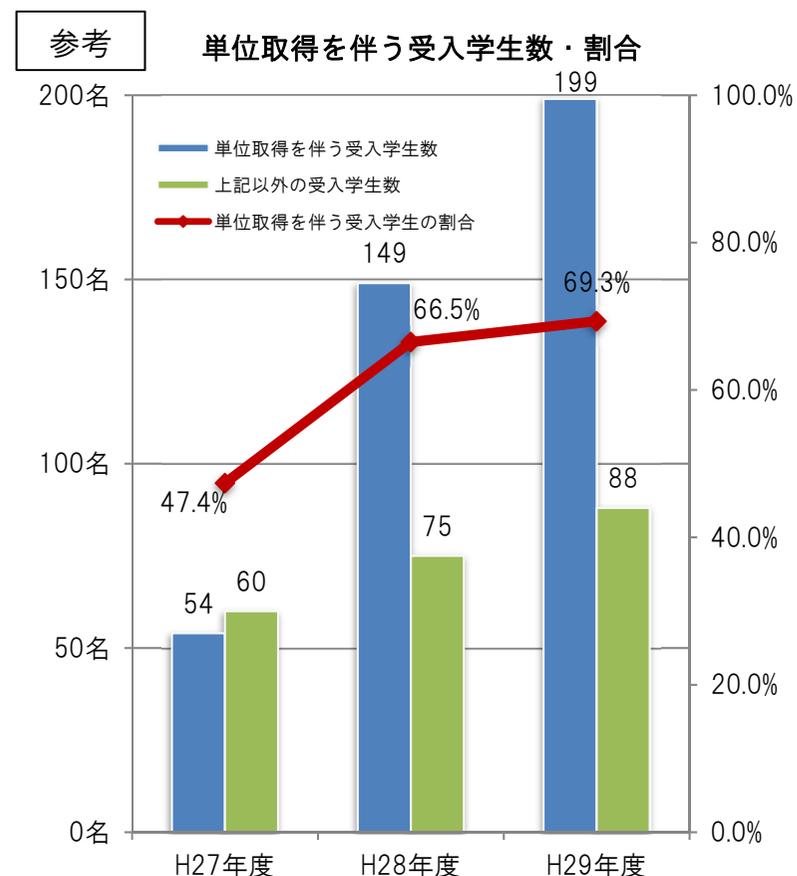
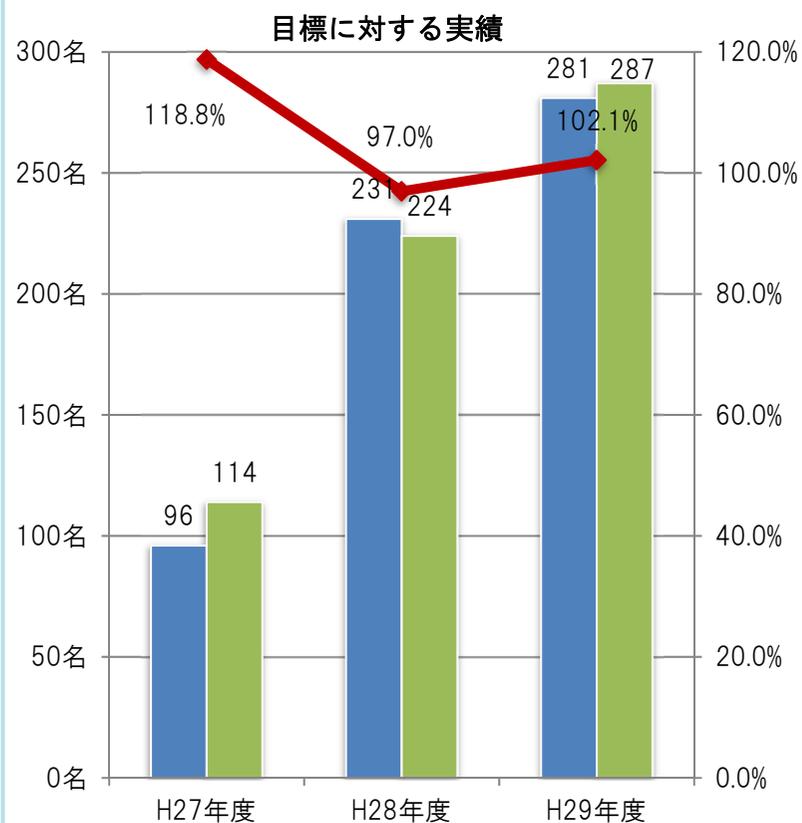
(主たる交流先・トルコ：○東京藝術大学)

平成29年度に「海外派遣危機管理マニュアル」を策定したところであり、今後はその具体的な運用を進めるとともに、引き続き国際情勢に係る最新情報を常に考慮しつつ、連携大学との交流活動を実施していく。

3. 交流学生数の実績（2）

（2-1）交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数） について〈全体の状況〉

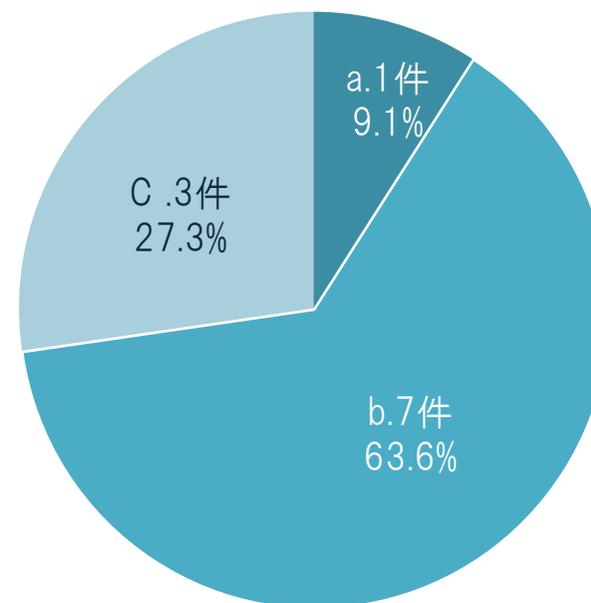
目標の達成率は年度によりばらつきがあるが、単位取得を伴う受入学生は事業開始から一貫して増加している。



(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数） について〈各事業の状況（平成29年度）〉

目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上
- b. 100%以上～200%未満
- c. 100%未満



※個別の受入学生数の詳細は別表2参照

(2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (主な取組を抜粋)

【平成29年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(主たる交流先・中南米：○山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)

留学後も引き続き自主的に日本語学習を継続する学生が多く、JLPT(日本語能力試験)には累計23名の学生が合格している。平成28年度に参加したタルカ大学学生は、帰国後同大学国際部職員となり、長期・短期派遣時の活動に貢献している。

(主たる交流先・中南米：○東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学)

日本語・日本事情に関する教育プログラムの修了発表会において、受入学生のうち既学者は個別のテーマを発表し、初学者はロールプレイによるグループ発表を行うことにより、日本語の上達度を測るのみならず、日本での体験に関して学生の感想を聞くことができ、次年度の事前教育プログラムの改善に繋がった。

(主たる交流先・中南米：○上智大学、南山大学、上智大学短期大学部)

マルチキャンパスの受入が確立し、多くの学生が南山大学で生活に必要な最低限の日本語や文化について約1か月間学び、上智大学で自身の専門分野を学ぶために東京へ移動した後もスムーズに生活に溶け込むことができた。

(主たる交流先・トルコ：○東京大学、東京工業大学)

全参加者対象のアンケート調査でも、短期・中期ともに評価が高く、本プログラムで受け入れた学生が、卒業後、正規学生として東京大学に進学したり、在籍大学で研究員となり、事業の事務的な部分(寮やワークショップ会場の手配等)に積極的に携わっているほか、帰国後もトルコでの指導教員と日本側ホスト教員との共同研究を継続するなど、このプログラムをきっかけに日本とトルコの学術的な成果が出始めている。

【平成29年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

(主たる交流先・中南米：千葉大学)

補助金の削減により、学生への支援金額の減少に伴い、旅費支給の減額により、メキシコやパナマからの渡航を辞退する学生が出てきてしまったため、最終的には、63名75.0%に至っている。

別表1：プログラムごとの派遣学生数(平成27年度選定)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)											
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数					左記以外の派遣学生数						
						目標	実績	3ヶ月未満	3ヶ月以上	(計)	目標	実績	3ヶ月未満	3ヶ月以上			
○山形大学、 山形県立米沢栄養大学、 鶴岡工業高等専門学校	「山形・アンデス諸国」ダブル・トライア ングル・プログラム	H27	8	15	187.5	8	15	8	13	0	2	0	0	0	0	0	
		H28	8	8	100.0	8	7	8	6	0	1	0	1	0	0	1	
		H29	15	13	86.7	15	13	12	11	3	2	0	0	0	0	0	
		計	31	36	116.1	31	35	28	30	3	5	0	1	0	0	1	
筑波大学	持続的な社会の安全・安心に貢献する トランスパシフィック協働人材育成プロ グラム	H27	5	9	180.0	5	0	5	0	0	0	9	0	9	0	0	
		H28	12	19	158.3	12	16	7	10	5	6	0	3	0	3	0	
		H29	14	24	171.4	14	24	8	8	6	16	0	0	0	0	0	
		計	31	52	167.7	31	40	20	18	11	22	0	12	0	12	0	
千葉大学	ポスト・アーバン・リビング・イノベーシ ョン・プログラム	H27	33	35	106.1	33	35	33	33	0	2	0	0	0	0	0	
		H28	51	43	84.3	49	43	49	41	0	2	2	0	0	0	2	
		H29	66	52	78.8	64	52	62	50	2	2	2	0	0	0	2	
		計	150	130	86.7	146	130	144	124	2	6	4	0	0	0	4	
東京大学	チリ・ブラジルとの連携による理工フ ロントニア人材の育成	H27	16	12	75.0	0	0	0	0	0	16	12	16	12	0	0	
		H28	15	13	86.7	5	2	3	2	2	10	11	7	11	3	0	
		H29	13	10	76.9	3	3	1	3	2	10	7	7	7	3	0	
		計	44	35	79.5	8	5	4	5	4	36	30	30	30	6	0	
○東京外国語大学、 東京農工大学、 電気通信大学	日本と中南米が取組む地球的課題を 解決する文理協働型人材養成プログラ ム	H27	10	12	120.0	10	9	10	9	0	0	3	0	3	0	0	
		H28	25	28	112.0	25	27	10	11	15	16	0	1	0	1	0	
		H29	30	36	120.0	30	36	10	14	20	22	0	0	0	0	0	
		計	65	76	116.9	65	72	30	34	35	38	0	4	0	4	0	
○長岡技術科学大学、 鶴岡工業高等専門学校、 茨城工業高等専門学校、 小山工業高等専門学校、 長岡工業高等専門学校	NAFTA生産拠点メキシコとの協働に よる15歳に始まる技術者教育モデル の世界展開	H27	17	28	164.7	4	17	0	13	4	4	13	11	13	11	0	
		H28	24	35	145.8	14	18	9	13	5	5	10	17	10	17	0	
		H29	25	40	160.0	15	21	9	18	6	3	10	19	10	19	0	
		計	66	103	156.1	33	56	18	44	15	12	33	47	0	47	0	
○上智大学、 南山大学、 上智大学短期大学部	人の移動と共生における調和と人間の 尊厳を追求する課題解決型の教育交 流プログラム	H27	15	15	100.0	10	10	8	8	2	2	5	5	5	5	0	
		H28	42	37	88.1	42	37	26	27	16	10	0	0	0	0	0	
		H29	48	53	110.4	48	53	26	35	22	18	0	0	0	0	0	
		計	105	105	100.0	100	100	60	70	40	30	5	5	5	5	0	
東京農業大学	中南米地域における食・農・環境分野 の実践的な専門家育成事業	H27	10	10	100.0	10	8	10	8	0	0	2	0	2	0	0	
		H28	20	18	90.0	20	17	13	12	7	5	0	1	0	1	0	
		H29	25	19	76.0	25	19	16	15	9	4	0	0	0	0	0	
		計	55	47	85.5	55	44	39	35	16	9	0	3	0	3	0	
合計			547	584	106.8	469	482	343	360	126	122	78	102	35	101	10	1
○東京大学、 東京工業大学	エネルギーシステムと都市のレジリエ ンス工学日土協働教育プログラム	H27	14	13	92.9	0	0	0	0	0	14	13	14	13	0	0	
		H28	17	14	82.4	1	0	1	0	0	16	14	16	14	0	0	
		H29	18	16	88.9	4	0	4	0	0	14	16	14	16	0	0	
		計	49	43	87.8	5	0	5	0	0	44	43	44	43	0	0	
東京藝術大学	Global Arts Crossing ～中東地域と の戦略的芸術文化外交～	H27	11	2	18.2	11	0	8	0	3	0	2	0	0	0	2	
		H28	17	1	5.9	17	1	12	0	5	1	0	0	0	0	0	
		H29	25	9	36.0	25	9	14	9	11	0	0	0	0	0	0	
		計	53	12	22.6	53	10	34	9	19	1	0	2	0	0	2	
○新潟大学、 福島大学	経験・知恵と先端技術の融合による、 防災を意識したレジリエントな農学人材 養成	H27	2	0	0.0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	
		H28	21	15	71.4	21	15	15	15	6	0	0	0	0	0	0	
		H29	21	22	104.8	21	15	15	15	6	0	7	0	7	0	0	
		計	44	37	84.1	42	30	30	30	12	0	7	2	7	0	0	
合計			146	92	63.0	100	40	69	39	31	1	46	52	46	50	0	2
総計			693	676	97.5	569	522	412	399	157	123	124	154	81	151	10	3

別表2：プログラムごとの受入学生数(平成27年度選定)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)											
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数					
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上	
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績				
○山形大学、 山形県立米沢栄養大学、 鶴岡工業高等専門学校	「山形・アンデス諸国」ダブル・トライア ングル・プログラム	H27	5	1	20.0	5	1	4	0	1	1	0	0	0	0	0	
		H28	8	13	162.5	8	13	7	12	1	1	0	0	0	0	0	
		H29	12	13	108.3	12	13	10	10	2	3	0	0	0	0	0	
		計	25	27	108.0	25	27	21	22	4	5	0	0	0	0	0	
筑波大学	持続的な社会の安全・安心に貢献する トランスパシフィック協働人材育成プロ グラム	H27	5	10	200.0	5	0	5	0	0	0	10	0	7	0	3	
		H28	12	19	158.3	12	8	7	1	5	7	0	11	0	11	0	0
		H29	14	22	157.1	14	11	8	0	6	11	0	11	0	11	0	0
		計	31	51	164.5	31	19	20	1	11	18	0	32	0	29	0	3
千葉大学	ポスト・アーバン・リビング・イノベーショ ン・プログラム	H27	39	42	107.7	39	42	39	36	0	6	0	0	0	0	0	
		H28	69	44	63.8	64	44	64	37	0	7	5	0	0	0	5	0
		H29	84	63	75.0	79	63	76	51	3	12	5	0	0	0	5	0
		計	192	149	77.6	182	149	179	124	3	25	10	0	0	0	10	0
東京大学	チリ・ブラジルとの連携による理工フロン ティア人材の育成	H27	0	2	-	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	
		H28	14	8	57.1	2	0	0	0	2	0	12	8	9	8	3	0
		H29	14	13	92.9	4	0	0	0	4	0	10	13	9	13	1	0
		計	28	23	82.1	6	0	0	0	6	0	22	23	18	23	4	0
○東京外国語大学、 東京農工大学、 電気通信大学	日本と中南米が取組む地球的課題を 解決する文理協働型人材養成プログラ ム	H27	10	11	110.0	0	0	0	0	0	10	11	10	11	0	0	
		H28	25	27	108.0	15	17	0	0	15	17	10	10	10	10	0	0
		H29	30	31	103.3	17	20	0	1	17	19	13	11	13	11	0	0
		計	65	69	106.2	32	37	0	1	32	36	33	32	33	32	0	0
○長岡技術科学大学、 鶴岡工業高等専門学校、 茨城工業高等専門学校、 小山工業高等専門学校、 長岡工業高等専門学校	NAFTA生産拠点メキシコとの協働に よる15歳に始まる技術者教育モデル の世界展開	H27	0	7	-	0	7	0	0	0	7	0	0	0	0	0	
		H28	20	27	135.0	8	6	0	0	8	6	12	21	12	21	0	0
		H29	25	27	108.0	11	12	0	3	11	9	14	15	14	15	0	0
		計	45	61	135.6	19	25	0	3	19	22	26	36	26	36	0	0
○上智大学、 南山大学、 上智大学短期大学部	人の移動と共生における調和と人間の 尊厳を追求する課題解決型の教育交 流プログラム	H27	4	4	100.0	4	4	0	0	4	4	0	0	0	0	0	
		H28	19	22	115.8	19	22	1	0	18	22	0	0	0	0	0	
		H29	25	26	104.0	25	26	1	1	24	25	0	0	0	0	0	
		計	48	52	108.3	48	52	2	1	46	51	0	0	0	0	0	
東京農業大学	中南米地域における食・農・環境分野 の実践的な専門家育成事業	H27	5	4	80.0	5	0	5	0	0	0	4	0	4	0	0	
		H28	10	9	90.0	10	5	4	4	6	1	0	4	0	0	4	
		H29	15	32	213.3	15	14	5	6	10	8	0	18	0	16	0	2
		計	30	45	150.0	30	19	14	10	16	9	0	26	0	20	0	6
合計			464	477	102.8	373	328	236	162	137	166	91	149	77	140	14	9
○東京大学、 東京工業大学	エネルギーシステムと都市のレジリエ ンス工学日土協働教育プログラム	H27	16	17	106.3	0	0	0	0	0	16	17	16	17	0	0	
		H28	19	21	110.5	4	0	4	0	0	15	21	15	21	0	0	
		H29	19	20	105.3	11	0	10	0	1	0	8	20	8	20	0	0
		計	54	58	107.4	15	0	14	0	1	0	39	58	39	58	0	0
東京藝術大学	Global Arts Crossing ～中東地域と の戦略的芸術文化外交～	H27	10	13	130.0	10	0	9	0	1	0	13	0	12	0	1	
		H28	14	18	128.6	14	18	9	15	5	3	0	0	0	0	0	
		計	46	49	106.5	46	36	32	28	14	8	0	13	0	12	0	1
○新潟大学、 福島大学	経験・知恵と先端技術の融合による、 防災を意識したレジリエントな農学人材 養成	H27	2	3	150.0	0	0	0	0	0	2	3	2	3	0	0	
		H28	21	16	76.2	21	16	15	15	6	1	0	0	0	0	0	
		H29	21	22	104.8	21	22	15	15	6	7	0	0	0	0	0	
		計	44	41	93.2	42	38	30	30	12	8	2	3	2	3	0	0
合計			144	148	102.8	103	74	76	58	27	16	41	74	41	73	0	1
総計			608	625	102.8	476	402	312	220	164	182	132	223	118	213	14	10

主たる交流先・中南米諸国

主たる交流先・トルコ